



福島県南相馬市立原町第二中学校 学校だより第4号 令和4年8月23日(火)
発行者:校長 和田節子 TEL (0244)22-4188 E-mail: haramachi2-j@fcs.ed.jp

からくさ



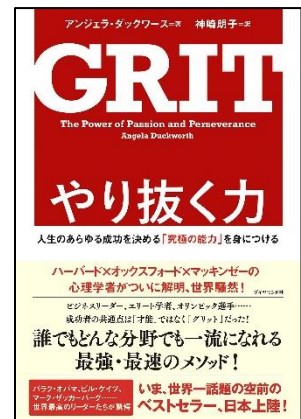
【教育目標】 自律 探究 協働

【重点目標】 自ら行動し、経験に学ぶ生徒

「やり抜く力」を鍛えよう

2学期が始まりました。始業式で生徒達に呼びかけたことは、「何かをやり抜く経験をしてほしい」ということです。心理学者のアンジェラ・ダックワースは、社会で成功を取めたり結果を出したりする人の特徴について長年研究を続けてきました。政治、経済、文化、スポーツなど、あらゆる分野の第一線で活躍する人達に聞き取り調査や検査を実施しました。その結果、明らかになったことは、「やり抜く力」の違いが成否を分けるということでした。つまり、「情熱」と「粘り強さ」を持つ人が結果を出すということです。

では、どうしたら「やり抜く力」を鍛えられるのでしょうか。今日からでもできることを3つ紹介します。



「やり抜く力」の鍛え方

1 習慣化する

大変なことや難しいことをやり抜くためには、「ルーティーンに勝る手段はない」と著者は言っています。毎日、同じ時間に同じ場所で、勉強、筋トレ、読書・・・をすれば、いつの間にか習慣になり、意識しなくても自動的にできるようになります。何かをしようとするたびに、いちいち「さあ、始めなくちゃ」と重い腰を上げなくて済みます。

2 「目標設定→クリア」を積み重ねる

楽なことをいくら続けても意味がありません。英検5級をとったら、次は4級、3級というように、**小刻みに目標を設定し、一つ一つ達成していく**経験を積むことが重要です。意図的な学習や練習を続け、小さな弱点の克服をこつこつと積み重ねることが、やがて驚異的な進歩につながります。

3 目的を見出す

目的とは、「何のためにするのか」ということです。「レンガ職人」の寓話を紹介します。ある人が3人のレンガ職人に「何をしているんですか」と尋ねました。すると次のような答えが返ってきました。

1人目の職人は、「レンガを積んでいるんだよ」

2人目の職人は、「教会をつくっているんだ」

3人目の職人は、「歴史に残る大聖堂を造っているんだ」

意義や目的を考えることは、仕事や勉強の強烈なモチベーションになります。

※ 参考文献 アンジェラ・ダックワース著「やり抜く力」ダイヤモンド社

2学期は、よい習慣をつくり、小さな目標を一つ一つクリアしながら、目的を達成する経験を積み重ねていってほしいと思います。